



金龜会報

平成25年3月1日発行
発行所
滋賀県立彦根東高等学校
金龜会
滋賀県彦根市金龜町4-7
TEL & FAX0749-23-0888

印刷所
株式会社ヒコハン
彦根市城町1丁目4-12



▲建築中である仮設校舎（左奥）と、完成間近の木造校舎棟（手前）



▶解体される生物実験室横の池

▲変貌する前の中庭

▶改修されることのない図書館

▲新たに建てられた2階建て部室棟



ごあいさつ

金龜会会长 細江正人

金龜会会員の皆様方におかれましては、ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

一昨年五月の総会において、中村善一郎大先輩の後任として会長に推举されました細江正人でございます。就任後やがて二年になろうとしております。五月の総会で、ご挨拶させていただきますものの、多くの会員の方々にはこの会報のご挨拶となり大変失礼いたしております。

一昨年は東京金龜会、東海金龜会へと中村前会長がお札をかねて訪問してくださいましたので、私は昨年初めて六月二日、二年に一度開催されていることの偉しさ、同窓の絆の強さと、会合開催の意義を実感し、意を強くする次第です。脈々と受け継がれる赤鬼魂のもと、今後益々の発展を祈念いたしました。

金龜会では、平成25年度末、七年ぶりに同窓会名簿を発刊する計画をしております。本校の同窓会名簿は、職業や所属団体、会社など専門分野の最終学歴も掲載されております。しかし、他校にはあまり見受けられな

ては、ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

一昨年五月の総会において、中村善一郎大先輩の後任として会長に推举されました細江正人でございます。就任後やがて二年になろうとしております。五月の総会で、ご挨拶させていただきますものの、多くの会員の方々にはこの会報のご挨拶となり大変失礼いたしております。

一昨年は東京金龜会、東海金龜会へと中村前会長がお札をかねて訪問してくださいましたので、私は昨年初めて六月二日、二年に一度開催の関西金龜会に、また六月一六日には東海金龜会、そして毎年七月七日開催の東京金龜会へ、学校長善住喜太郎先生、事務局吉田昌貢先生と共にご挨拶にあがりました。母校での総会のみならず、東京や大阪、名古屋といつた大都会で金龜会が開催されていることに会の偉しさ、同窓の絆が強さと、会合開催の意義を実感し、意を強くする次第です。脈々と受け継がれる赤鬼魂のもと、今後益々の発展を祈念いたしました。

金龜会では、平成25年度末、七年ぶりに同窓会名簿を発刊する計画をしております。本校の同窓会名簿は、職業や所属団体、会社など専門分野の最終学歴も掲載されております。しかし、他校にはあまり見受けられな

る

ると認識し、偉大なる大先輩と後輩としての繋がりを知るうえで大いなる手助けになるものと信じ、さらに充実をさせていきたいと考えております。

また、本校は本年、木造特別教室を竣工し、本館棟の耐震工事に順次取りかかります。未尾のご案内とおり今年は五月二六日(日)に、新築になった木造棟音楽教室において金龜会総会を開催いたします。今日の母校の姿を見に来ていただき、更多的な機会には是非ご参加いただき、更なる理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、昨年の総選挙におきましては、政権与党に対する批判から、第三極といわれる政党が次々に誕生し、同窓という、意識すれば確かな強い絆で結ばれた繋がりがあります。

今一度、会の発展と貢献に為すべきことは何か! 同窓会名簿の発刊、木造特別教室の竣工を踏まえ、未来地図を描き直す本年と決意しております。より一層のご指導ご鞭撻をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

ごあいさつ



滋賀県立彦根東高等学校長 善住喜太郎

金龜会会員の皆様には、平素より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきしておりますことに、心から感謝申し上げます。

本校の教育活動にご理解とご協力をいただきておりますことに、心から感謝申し上げます。

本校は平成16年度、文部科学省から滋賀県で初めてスープラーサイエンスハイスクール（S S H）の指定を受けました。S S Hとは、将来的な科学技術系の人材を育成することを目指し、理数教育に重点を置いた研究開発を行う高等学校のことです。現在、全国に178校あります。

S S Hとは、このS S Hの中から選ばれ、重ねて指定を受ける学校で、地域における理数系教育の中核としての機能を強化するため、プラスマーファの支援が行われる高校です。全国に34校しかありません。今年度から3年間、本校はこのコアS S Hの指定も受けることになります。

このため、4月の数学者秋山仁先生の講演会を皮切りに、地域全体の科学力向上を目指し、彦根市をはじめとする地域の教育委員会と連携して、小・中学校で最新の実験機器を利用した授業が実施できるよう支援したり、理科・数学の基礎講座や出前授業を行ったりする取組を始めました。また、科学に強い興味や特異な能力を示す子どもを見いだし、その力を伸ばすよう、小・中学生を対象にした彦根東サイエンス塾を開講しました。さらに、子どもたちの自発的な科学に対する探究の姿勢を育てるため、中学校や高校の科学部が行う自然調査活動や合同合宿を支援したり、サイエンスフェスティバルを開催してボスターセッションによる発表の機会を提供したりする取組もスタートさせました。今年度立ちあげたこれらの取組をこれからどう発展させるかが本校にとっての大きな課題になります。

2点目は、本校の耐震改修工事の動きです。工事は今年度から本格化しました。グランドの校舎側にあつた部室は取り壊され、各部はすでに体育馆裏の新しい2階建ての部室棟に移っています。早速、落ち葉の山からわき出てきたダンゴムシの大群と戦つた部もありました。また、体育馆横には木造の特別教室棟が姿を見せています。ここには、多目的に使える広い音楽室のほか、調理室、被服室、生徒会室、そして洗面所や自動販売機コーナーなどが設けられています。

以上、本校を取り巻く状況を報告させていただきます。来年度以降に応じ、これからもその都度、学校の教育活動を調整していく必要があると想っています。

以上、本校を取り巻く状況を報告させていただきました。来年度以降もこのようなコアS S H事業と耐震改修工事が継続し、学校をあげて取り組んでいかなければなりません。今後とも、金龜会会員の皆様には、お力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健康とご活躍をお祈りいたしまして、ご

結果、同窓の滋賀の前衆議院議員には残念な結果となりました。

「私が真に必要としていることは、何を為すべきか私自身決めることで、何を認識すべきかについてではない、認識があらゆる行為に先行することは別として」。若き日のキルケゴルが日記に記した言葉の一部です。

私は母校を卒業する際に出会ったその言葉を、残念ながら唯一数行しか覚えていませんが、今まで批判からではない真に必要とする為すべきことを、私たちは自ら考え、創造する能力を發揮するときではないかと思います。この国の未来と我が母校の将来のために。

同窓という、意識すれば確かな強い絆で結ばれた繋がりがあります。

今一度、会の発展と貢献に為すべきことは何か! 同窓会名簿の発刊、木造特別教室の竣工を踏まえ、未来地図を描き直す本年と決意しております。より一層のご指導ご鞭撻をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

このため、4月の数学者秋山仁先生の講演会を皮切りに、地域全体の科学力向上を目指し、彦根市をはじめとする地域の教育委員会と連携して、小・中学校で最新の実験機器を利用した授業が実施できるよう支援したり、理科・数学の基礎講座や出前授業を行ったりする取組を始めました。また、科学に強い興味や特異な能力を示す子どもを見いだし、その力を伸ばすよう、小・中学生を対象にした彦根東サイエンス塾を開講しました。さらに、子どもたちの自発的な科学に対する探究の姿勢を育てるため、中学校や高校の科学部が行う自然調査活動や合同合宿を支援したり、サイエンスフェスティバルを開催してボスターセッションによる発表の機会を提供したりする取組もスタートさせました。今年度立ちあげたこれらの取組をこれからどう発展させるかが本校にとっての大きな課題になります。

来年度は第一本館だけでなく武道場や銀杏会館、第一本館と第二本館の渡り廊下などの工事も行われます。正門は閉鎖されて生徒用の通用門からしか出入りできなくなり、前庭や中庭にも入れません。狭いグランドの一部は、仮設校舎への通路や駐車場になりますのでなお一層狭くなりますが、現在、大規模な引っ越し作業の準備を進める一方で、来年度の全定の生徒の動線、各種行事の会場、部活動の活動場所等に頭を悩ませている状況です。この耐震改修工事は、第二本館の改修が終わる平成27年3月まで続きますので、工事の進捗状況に応じ、これからもその都度、学校の教育活動を調整していく必要があると想っています。

以上、本校を取り巻く状況を報告させていただきました。来年度以降もこのようなコアS S H事業と耐震改修工事が継続し、学校をあげて取り組んでいかなければなりません。今後とも、金龜会会員の皆様には、お力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健康とご活躍をお祈りいたしまして、ご

恩師だより

「道」を探し求めて

門脇 正人



先生は昭和十八年愛知川町（現愛荘町）でお生まれになり、愛知高校・京都大学理学部数学科を卒業。民間出版社を経て昭和四十四年より本校に赴任され、平成九年三月まで数学科教諭として勤務されました。昭和五十三年からは新聞部顧問として、全国新聞コンクールで日本一になるなど新聞部を全国的に有名な存在にまで育て上げられました。また、平成四年には「新聞教育賞」（全国）を受賞されています。

河瀬高校教頭・愛知高校校長などを経て平成十五年に定年退職。退職後は滋賀県立安土城考古博物館学芸課、愛荘町立歴史文化博物館館長を務められ、現在は顧問として活躍されています。

なお、著書としては『朝鮮人街道』をゆく（彦根東高校新聞部による消えた道探しー』（一九九五、サンライズ出版）などがあります。

教科のこと

私はよく数学の授業のことを「算数の授業」と言つていました。生徒たちは「僕らは数学を習つてている」と言つて怒っていました。

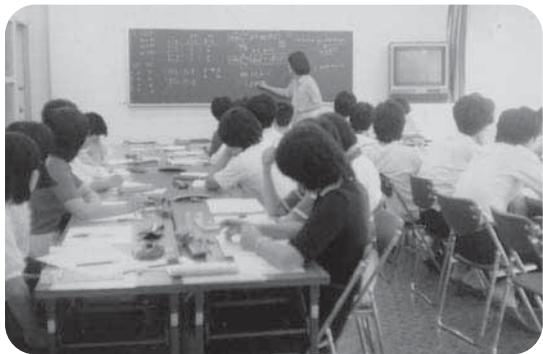
生徒たちは「数学は答えが一つである」と言ひはなち、教師たちは「数学は易しい」と考へてゐるようでした。

数学という分野では分からぬことのほうが圧倒的に多く、そんなもの教えられないと思つていました。

という自負があつたのでしようか

もちろん、数学でもよくわかつてゐる部分を高校などでは学習するのですから、勉強してわかつて欲しいという思いがあつたからかも知れません。

若い頃、参考書や問題集を作つていたのですが、正月休みなどは一日中問題を解いていました。（春・夏休みは忙しかつたので）もともと怠惰で日ごろは問題を解いたことはな



銀杏会館での初めてのクラス合宿（昭和54年7月）

分掌のこと

かつたのですが、そのときは集中しており、入試問題を一日一〇〇題は解いていました。三～五年分の問題を解くと問題がなくなってしまい、いい問題とくだらない問題の区別が分かるようになりました。それは大きな収穫でした。

教員には授業をするだけが仕事ではありません、いわゆる公務分掌というものがあります。

教務関係を多く担当していました。入試関係や時間割作成、クラス分けなどです。教育課程の作成にも何回も関わりました。

生徒会係もしましたが、進路指導係が多かつたようです。

進路指導係は当時生徒課に属していましたが、昭和六十三年に独立をして、進路指導課になり、初代の課長になりました。

滋賀県進路指導研究会の進学部会の事務局や四部会総合事務局を預かつたこともあります。

もちろんクラス担任もずっとしていました。

部活動のこと

顧問としては新聞部が長かつたし、一番思い出に残っています。

顧問になつた当時は、年に三回ほ

かつたのですが、そのときは集中しており、入試問題を一日一〇〇題は解いていました。三～五年分の問題を解くと問題がなくなってしまい、いい問題とくだらない問題の区別が分かるようになりました。それは大きな収穫でした。

分掌のこと

教員には授業をするだけが仕事ではなく、いわゆる公務分掌というものがあります。

教務関係を多く担当していました。入試関係や時間割作成、クラス分けなどです。教育課程の作成にも何回も関わりました。

生徒会係もしましたが、進路指導係が多かつたようです。

進路指導係は当時生徒課に属していましたが、昭和六十三年に独立をして、進路指導課になり、初代の課長になりました。

そこから、「足で稼ぐ新聞作り」「ハードなメッセージをソフトな紙面で」といつた考えを確立してゆきます。三年目に最優秀賞を受け、以後三十三年間続いています。全国でも評価され、ついに全国一になりました。

社会的な問題に取り組む、年間で特集を組むなどのスタイルが全国的に注目され

中でも特集「朝鮮人街道をゆく」は多くの思いがあります。能登川駅前の分からなかつた道を解明したことは大きな出来事でした。

今もその伝統が引き継がれていることは、新聞部の諸君の努力と顧問の先生の指導の結果だと思います。

なお、「彦根東高新聞縮刷版」では新聞発行に対する考え方、IVでは特集「朝鮮人街道」について書いていますので、読んで頂けるとあります。

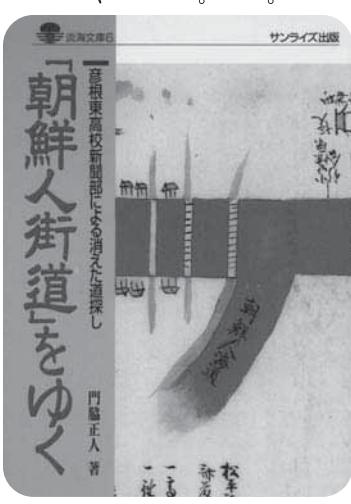
近江は「道の国」と呼ばれていますが、私はもともと道には興味がありました。「朝鮮人街道」の成果をもとに現在古道の調査をしています。

江戸期や明治初期の古地図などから、江戸期の「北国街道」「御代参街道」「多賀道」「高野道」などの復元に取り組んできました。また、道に関連して「古地図」や「道標」の調査研究もしています。

多くのことを彦根東高校や新聞部の活動の中から学んだのです。



卒業生寄贈の校歌碑（昭和58年3月）



記念講演

「時代を読む」

田原総一朗 氏(東1)



いる。その原因是色々

と言っているが、
その第一の原因是1
部上場企業の経営者

にやる気がないこと
である。ソニーの盛

田さん、パナソニッ
クの松下さん、新日

鉄の稻山さん、京セ
ラの稻盛さんの例を

上げながら、マーケ
ットにない物を作る

今年度の記念講演は、テレビ
等でお馴染みのジャーナリスト
の田原総一朗先生をお招きしま
した。先生は53年(東1)に本
校を卒業され、早稲田大学文学
部を経て、岩波映画製作所から
64年東京12チャンネル(現テレ
ビ東京)に入社しディレクター
として活躍され、77年からフリ
ーになり、『朝まで生テレビ!』
『サンデープロジェクト』でテ
レビジャーナリズムの新しい地
平を切り開いてこられました。

現在は早稲田大学特命教授と
して大学院で講義をするほか、
「大隈塾」塾頭や「琵琶湖塾」
塾長を務められ、テレビ・ラジ
オに多数出演されています。

まず、講演は「今の日本には
いっぱい問題がある」という言
葉から始まり、少子化問題・原
発問題・消費税問題を今の政権
内部での動きを交えながら的確
に解明していただきました。

そして、日本の経渢について、
1990年に日本は先進国の中
で世界一の国際競争力をを持つて
いたが、現在は26位まで落ちて
いる。その原因は色々



金龜会総会

(略)

佐竹 鉄次郎 (東高6回)
塚本 磯弥 (東高8回)
安田 良介 (東高29回)

平成24年度金龜会総会は5月
27日(日)に会場を変更して母
校武道場において開催され、晴
天に恵まれ、全国から190名

を超える同窓生が参加されました。
会長・校長の挨拶の後、母
校議長に橋本貢治(東5)氏を選
出し議事に移りました。

平成23年度の事業報告・会計
決算報告、平成24年度事業計画
案・会計予算案が全会一致で承
認されたとともに、金龜会名簿
について提案され、平成26年1
月をメドに発行することが確認
されました。

**第95回平成二四年度東京
金龜会総会並びに懇親会**
幹事長代行 福永典明(東17)

校歌を参加者全員で合唱し、盛
会のうちに会を開きました。
なお、総会後新たに選出され
た常任理事をご紹介します。(敬
称略)



ていただき、夕飯のおかずに
郷土の美味をお持ち帰りいただ
けるよう大福引会も用意いたし
ますので、奮つてご参加くださ
います。

ところで東京金龜会では病気
療養のため大高会長が勇退され、
西村幹事長も奥様を亡くされ、
他の幹事も体調わしくない方
も出て、会長以下、幹事の人事
刷新が早急に求められておりま
す。金龜会の中で最も伝統のあ
る東京金龜会は5年後には百回
を迎えることになり、更なる会
の発展のためにも、どうぞ会員
各位におかれましては、尚一層
のご協力とご理解、ご指導、ご
鞭撻を賜りますよう、切にお願
い申し上げます。

毎年7月7日に行われている
東京金龜会も、数える事95回を
迎えることとなりました。今回
は土曜日ということもあり、午
後4時からの開催として、89名
の会員にお集まりいただくこと
ができました。

総会では恒例の会長挨拶から
始まるのですが、大高会長が体
調を崩され、すべての役職から
退かれたことから、東京金龜会
の会長職も辞退される事となり
ました。まことに残念の極みで
あります。変わって清水副会長
より挨拶となりました。細江正
人金龜会会长、善住喜太郎学校
長とご来賓のご挨拶をいただい
た後、岡村美孝サントリーコー
ポレートビジネス株代表取締役
社長(東17)の講演に移りました。



関西金龜会
事務局長 川村俊明(東14)

関西金龜会では、去る平成二
十四年六月二日(土)に、二年
に一度の総会を開催致しました。
当会会員一〇四名という多数の
参加による、盛大な総会となり
ました。

今回総会の特別講演会には、
同窓生でもある(財)禅文化研究所
の所長、西村惠信氏(彦3)を
講師としてお迎え致しました。
「自然と人間」と題した素晴らしい
ご講演をいただき、西村氏
には深く感謝申し上げます。

そこで、今年度の第96回総会
では『見直そう。故郷滋賀の名
産品の数々、堪能しよう。故郷
滋賀の味』をテーマに、郷土の
美味を取り揃えて、楽しんでい
ただけるよう企画いたしており
ます。今年は7月7日が日曜日
に当たります。開催時間も午後
2時からを予定しております。
女性の皆様にもどしどし参加し

ました。

サントリービールの誕生から
現在に至るまでの難難辛苦を、
グラフや資料で細かく解説され、
また社内や他社との実に具体的
な生々しい攻防などのやりとり
を織り交ぜて語られるお話に、
大変興奮して聴き入ることがで
きました。いずれ機会がありま
したら、是非皆様にも聴いてい
たいと思います。

金龜会の総会ですが、毎回一〇
名を超える参加者を得て、母

校の近況や同窓生の活躍に触れ、
更に同級生同士の懐かしい思い出
話に浸れるのも、ご参加いた
だきました。会員の皆様のおかげ
でござります。この場を借りて
御礼申し上げますとともに、今
後とも、関西金亀会に多数のご
参加をお願い申し上げます。

また、同好会も例年と変わら
ず精力的に活動しております。
「歴史街道歩こう会」では毎
度、百名を超える多数の会員の方々にご参加いただいておりま
す。第十九回には「新緑の滝道
に名刹を訪ね歩く」と題し、箕
面大滝や周辺寺社を巡りながら
池田までを、第二〇回には「甲
子園スタジアムツアーアと西宮酒
造めぐり」と題し、甲子園球場
内や白鹿ミュージアムの見学を
しつつ西宮戎までを、それぞれ
元気に楽しみながら歩きました。
「ゴルフ同好会」では、平成
二四年は、春にスポーツニッポン
カントリー俱楽部にて、秋に
瀬田ゴルフコースにてコンペを開催致しました。毎度十名程の
参加者数ですが、和気あいあい
とした雰囲気の中、皆で楽しんで
おります。

金亀会は、本年（平成二
十三年）設立十周年を迎えま
した。昨年は東日本大震災の影響
もあって、当会も自虐ムードにな
りましたが、本年度は会員全員が相互に強い絆の許に明るく
長くして、和やかな懇親会する
ため、会員の協力を得て、音瀬
晴夫様（東三）のサックス演奏
や、宮川武樹様（東二四）が主
宰するバンドのライブ演奏を樂
みました。会場は最高に盛り
上がりました。

当日の出席会員は三六名でした。
た。当日は、ご多忙中のところ、
金亀会会長 細江正人様、母校
彦根東高校校長 善住喜太郎様、
同校教諭 吉田昌貢様のご臨席
であります。



動内容を検討し、より多くの会員の皆様に御参加いただけるよう、活動を続けていきたいと考えております。

をいただきました。

また、当日、彦根在住の伊藤二郎先生が名古屋に来られていました。

お一人であります田島治郎様（中

五七）から連絡を受け、是非ご

参加をお誘いいたしましたと

ころ、快く受諾頂きました。

先生の講義を受けられた卒業

生も多数おり、再会を懐かしむ

一時もありました。

寺倉幸夫会長（東四）の開会

の挨拶、細江金亀会会長のご挨

拶・金亀会の活動の報告、更に、

善住校長先生の母校の校舎改修

状況や後輩たちの文武にわたる

活躍の状況報告をお聞きしまし

た。また、改修前の校舎の落書

など懐かしい写真をお見せい

ただき、感慨に浸った会員もお

りました。

当会の昨年度の活動報告、会

計報告・会計監査報告がなされ、

出席した会員の賛成多数で、報

告内容の承認がなされました。

懇親会では、従来、当地で活

躍されておられる会員の医療や

最先端の科学技術などの講演を

紹介することにしておりました

が、会員相互間の歓談の時間を

長くして、和やかな懇親会する

ため、会員の協力を得て、音瀬

晴夫様（東三）のサックス演奏

や、宮川武樹様（東二四）が主

宰するバンドのライブ演奏を樂

みました。会場は最高に盛り

上がりました。

また、加藤達雄様（東一一）

が幹事で、毎年二回開催されて

おりますゴルフ親睦会の優勝者

表彰では、次の二名の会員が表

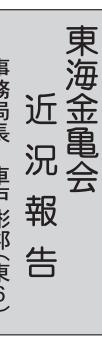
彰されました。

●第一八回大会 西川登代子様



東海金亀会 近況報告

事務局長 車戸彬邦（東6）



平成二三年一月二九日 関ヶ原カントリークラブ
第一九回大会 宮川武樹様
(東二十四)

平成二四年五月二日 愛岐カントリークラブ

新しく加入されました村岡

づ香様の紹介や長老会員様から

の若い会員への激励のスピーチ

など、十周年の記念総会にふさ

わしい盛り上がりがありました。

最後に、校歌斎唱・記念写真

撮影でお開きとなりました。次

回の定期総会は平成二五年六月

一六日（日）です。特に、若い

世代の会員の積極参加を希望す

いたします。

最後に、校歌斎唱・記念写真

撮影をお開きとなりました。次

回の定期総会は平成二五年六月

一六日（日）です。特に、若い

世代の会員の積極参加を希望す

ります。

11月10日（土）、グランドデ
ューカホテルにおいて、彦根・
湖東・湖北支部「秋の集い」を開
催した。5月の支部総会にて、
『大先輩の皆さんから若い世代

の方たちまで、幅広く楽しんで
いただける事業にしたい』と提

案したが、その申妻あつてか初

参加の会員も数多く、総勢48名

が集う盛会の事業となつた。

午後5時半より臨時総会を開

催し、支部会則の一部改正を行

い、現況に合致させるとともに、
若い世代の同窓生が、支部の事

業へ、さらに積極的に参加参画

できるように体制を改めた。

「秋の集い」では、辻支部長

挨拶の後、支部会員でもある善

住校長先生から、母校の現状や

取り巻く環境について、詳しい

お話をうかがつた。細江金亀会

会長の乾杯を合図に懇親会がス

タート、世代を超えたコミュニ

ケーションで大いに盛り上がつ

た。食事が済むと、県下のマジ

ック・バーで活躍中の、清水孝

生氏等による「マジック・ショ

ー」を堪能した。目の前で繰り

広げられる摩訶不思議な世界。

観るだけなく『体感する』テ

ーブル・マジックも多くの方々

に楽しんでいた。だくともに、
その様子を大型スクリーンに投

影した。

事業後開催した、決算反省会

の席上では、支部名称について

の協議（通常総会提案予定）を行つた。「秋の集い」については、

「旧友との楽しいひとときを過

ごせた」などの感想とともに、

マジック・ショーについては、「目

の前でスゴイことが起こつた!」

や、「初めてナマで観ました」と

いう好評から「ショータイムが

ござつた」といふ意見がござつた。

また、細江正人様、母校

彦根東高校校長 善住喜太郎様、

本年も学年幹事会中心に各活

開催致しました。毎度十名程の
参加者数ですが、和気あいあい
とした雰囲気の中、皆で楽しん
でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

参加者数ですが、和気あいあい

とした雰囲気の中、皆で楽しん

でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

参加者数ですが、和気あいあい

とした雰囲気の中、皆で楽しん

でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

参加者数ですが、和気あいあい

とした雰囲気の中、皆で楽しん

でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

参加者数ですが、和気あいあい

とした雰囲気の中、皆で楽しん

でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

参加者数ですが、和気あいあい

とした雰囲気の中、皆で楽しん

でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

参加者数ですが、和気あいあい

とした雰囲気の中、皆で楽しん

でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

参加者数ですが、和気あいあい

とした雰囲気の中、皆で楽しん

でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

参加者数ですが、和気あいあい

とした雰囲気の中、皆で楽しん

でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

参加者数ですが、和気あいあい

とした雰囲気の中、皆で楽しん

でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

参加者数ですが、和気あいあい

とした雰囲気の中、皆で楽しん

でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

参加者数ですが、和気あいあい

とした雰囲気の中、皆で楽しん

でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

参加者数ですが、和気あいあい

とした雰囲気の中、皆で楽しん

でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

参加者数ですが、和気あいあい

とした雰囲気の中、皆で楽しん

でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

参加者数ですが、和気あいあい

とした雰囲気の中、皆で楽しん

でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

参加者数ですが、和気あいあい

とした雰囲気の中、皆で楽しん

でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

参加者数ですが、和気あいあい

とした雰囲気の中、皆で楽しん

でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

参加者数ですが、和気あいあい

とした雰囲気の中、皆で楽しん

でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

参加者数ですが、和気あいあい

とした雰囲気の中、皆で楽しん

でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

参加者数ですが、和気あいあい

とした雰囲気の中、皆で楽しん

でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

参加者数ですが、和気あいあい

とした雰囲気の中、皆で楽しん

でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

参加者数ですが、和気あいあい

とした雰囲気の中、皆で楽しん

でおります。

開催致しました。

毎度十名程の

平成23年度 金龜会一般会計収入支出決算報告書

(収入の部)

(単位：円)

予算科目	予算額	収入済額	差引額	備考
入会金	1,036,000	1,016,000	△20,000	在校生
会費	3,300,000	3,407,800	107,800	会費 終身 316人・年 317人
繰入金	0	0	0	基金会計繰入金
雑収入	23,430	34,690	11,260	名簿代、預金利息等
繰越金	287,570	287,570	0	前年度繰越金
合計	4,647,000	4,746,060	99,060	

平成24年度 金龜会一般会計収入支出状況(12月末)

(収入の部)

(単位：円)

予算科目	予算額	収入済額	差引額	備考
入会金	1,041,000	1,025,000	△16,000	在校生
会費	3,410,000	1,156,080	△2,253,920	会費 終身 108人・年 99人
雑収入	23,581	11,923	△11,658	名簿代、宛名シール、預金利息
繰越金	225,419	225,419	0	前年度繰越金
合計	4,700,000	2,418,422	△2,281,578	

(支出の部)

予算科目	予算額	支出済額	差引額	備考
事務費	100,000	115,503	△15,503	消耗品等
通信費	140,000	150,989	△10,989	電話代、郵送料
総会費	217,000	232,290	△15,290	総会諸経費
会議費	170,000	129,431	40,569	常任理事会
旅費	150,000	107,100	42,900	支部総会
涉外費	450,000	481,500	△31,500	支部総会祝金
事業費	3,130,000	3,153,828	△23,828	会報印刷・発送、卒業記念品等
激励費	250,000	150,000	100,000	全国大会出場激励金
繰出金	0	0	0	
予備費	40,000	0	40,000	
合計	4,647,000	4,520,641	126,359	

収入総額 4,746,060円—支出総額 4,520,641円=残額 225,419円(平成24年度へ繰越)

(支出の部)

予算科目	予算額	支出済額	差引額	備考
事務費	107,000	77,233	29,767	消耗品等
通信費	140,000	88,351	51,649	電話代、郵送料
総会費	237,000	268,914	△31,914	総会諸経費
会議費	140,000	29,300	110,700	常任理事会
旅費	120,000	122,760	△2,760	支部総会
涉外費	600,000	618,900	△18,900	支部総会祝金
事業費	3,066,000	176,814	2,889,186	公孫樹印刷、印刷機リース代
激励費	250,000	125,000	125,000	全国大会出場激励金
予備費	40,000	0	40,000	
合計	4,700,000	1,507,272	3,192,728	

収入総額 2,418,422円—支出総額 1,507,272円=残額 911,150円

平成23年度 金龜会基金会计収入支出決算報告書

(収入の部)

(単位：円)

予算科目	予算額	収入済額	差引額	備考
繰越金	38,545,431	38,545,431	0	前年度繰越金
繰入金	0	0	0	
寄付金	1,000	0	△1,000	
返還金	3,000,000	2,711,994	△288,006	東高新聞縮刷版刊行貸付金返還金
雑収入	3,569	3,069	△500	預金利息
合計	41,550,000	41,260,494	△289,506	

平成24年度 金龜会基金会计収入支出状況(12月末)

(収入の部)

(単位：円)

予算科目	予算額	収入済額	差引額	備考
繰越金	40,260,494	40,260,494	0	
繰入金	0	0	0	
寄付金	1,000	50,000	49,000	彦根高校第3回卒業同窓会(27会)
返還金	288,006	0	△288,006	東高新聞縮刷版刊行貸付金返還金
雑収入	3,500	84	△3,416	
合計	40,553,000	40,310,578	△242,422	

※東高第9回卒業同窓会より「電子黒板（タッチパネル一体型ディスプレイ）一式」(90万円相当)を御寄贈頂きました。

(支出の部)

予算科目	予算額	支出済額	差引額	備考
激励費	1,000,000	1,000,000	0	海外研修激励金
合計	1,000,000	1,000,000	0	

(支出の部)

予算科目	予算額	支出済額	差引額	備考
激励費	1,000,000	1,000,000	0	SSH海外研修激励金
後援費	300,000	300,000	0	第3期SSHおよび新規コアSSH指定記念講演会
合計	1,300,000	1,300,000	0	

収入総額 41,260,494円—支出総額 1,000,000円=残額 40,260,494円(平成24年度へ繰越)

収入総額 40,310,578円—支出総額 1,300,000円=残額 39,010,578円

平成23年度 会計監査報告書

平成23年度滋賀県立彦根東高等学校金龜会の一般会計及び基金会计について、各会計の決算書を基に関係諸帳簿、預金通帳及び収入支出証拠書類等の監査をしたところ、いずれも適正に処理されており、正確であったことを認めます。

平成24年4月25日

金龜会会計監査 大森修太郎印 川瀬勝彦印

寄稿の予約を是非お願いします。字数は14字×28行程度をお願いします。

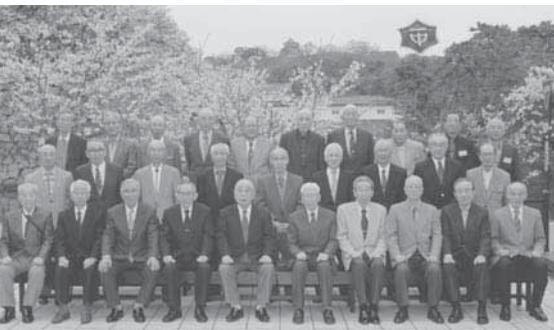
彦中五十五期だより

高木徳本(中55)



彦中58期同窓会

中川原正美（中58）



芹龜会だより

澤田壽栄雄(彦1)

芹龜会（彦根高校東校舎第一回卒業生中心の同窓生）の旅行クラブは、平成二十四年五月二十九日から三日間の日程で“奥の細道”ゆかりの出羽路へ出かけた。

参加者は男十五人、女二十四人。初日は山形新幹線で山形入り。藏王高原刈田岳ふもとの「お釜」（噴水口跡の池水）へ。標高千七百メートルのこのあたりは、残雪が周りの山麓はもちろん、ルート沿いにもあって初夏とは思えぬ寒さ。宿泊先の藏王温泉でかけ流しの湯に温まつた二日目は最上川の舟下り。悠々たる大河の趣きながら日本三大急流のひとつというだけに、さみだれを集めなくとも流れは早い。古めかしい乗船場の船番所が印象に残つた。

二七会 卒業六〇周年 記念同級会 音居久雄(彦3)



記念同級会

A formal group portrait of the 1995-1996 Board of Directors. The group is arranged in three rows of approximately 17 people each, seated in a large room. In the background, there is a large, ornate chandelier hanging from the ceiling and two arched windows with decorative frames. The individuals are dressed in formal attire, with men in suits and women in dresses or blazers.



続いて西澤先生に乾杯の音頭をとつて頂き祝宴に移つたが、今日は久しぶりに参加した遠来の友も多く、お互い時間を忘れて昔話や近況報告に各所で花が咲いた。宴なればビンゴゲームが始まると、一段と雰囲気が盛り上がつたが、やがて懇親会は校歌競演の場へと変じた。

というのも、われわれ彦3学年の校歌ではない。しかし一度この校歌を聴いてみたいと金龜中の吉田先生にご相談申しあげたところその歌唱を入れたCDがあるとのお話なので、早速それを入手し、当日、ホテルの再生装置で大宴会場に流して皆で聴いた。それに対して今度は十数人の女性有志が壇上に上がりて「彦根高女」の校歌を高らかに歌い上げ、次いで男性一同がフロア上で「彦中」校歌を高唱するという展開になつた。競演という点では、自然と、ソプラノ・アルトの合唱になつた彦根の校歌が一番聴き応えがあつたというべきか。最後に全員で「応援歌」を四番まで歌つて歌唱大会を終えたが、やはり「同窓会には校歌齊唱がよく似合う」との思いを強くした次第。

今年も、ほんと定宿といつてよい、市内のデュークホテルを会場に、五月二十二日彦中十五期の同級会を開いた。幹事は宝塚の中嶋君と高槻の岩崎君。早くから会場に陣取つて我々の到着を待つてくれていた。

「友あり遠方より来る。また、樂しからずや」一年ぶりの再会に、みんな力強い握手をするのであつた。この一年の間に物故した級友が何人かおり、彼らを偲んで黙祷した。出席者は激減したが、心意気だけは天を衝くものがあった。飲むほどに談論風発、互いの人生を語り合つた。

「嗚呼英傑が夢のあと……」この応援歌は六番まであるが、今でも四番まではすらすらと出てくる。声を枯らして歌つた。

この参集した十四名の老童は、

4月13日（金）、角田丈輔、北村弘、野村善一、吉井平一、長谷川助次郎の諸氏のお世話で彦根キャッスルホテルに集まつた同期生は、昨年より多い29名でした。消息が確認された49名に案内して、29名もの元気な同期生が集まれたのは幹事諸氏のご尽力のお蔭でした。野村氏の挨拶と日程説明に続く自己紹介のあと、バスで青春の思い出の残る彦根城周辺を巡回しました。私たちの会合を待つていたかのように、古城の桜は満開でした。八十四年を生き抜いてきた同期生にとつては、春爛漫の桜花が

ん、ルート沿いにもあつて初夏
とは思えぬ寒さ。宿泊先の藏王
温泉でかけ流しの湯に温まつた
二日目は最上川の舟下り。悠々
たる大河の趣きながら日本三大
急流のひとつというだけに、さ
みだれを集めなくとも流れは早
い。古めかしい乗船場の船番所
が印象に残つた。

旧制中学校・女学校制度の最後の生徒として入学し、戦後の学制改革の仕上げ期、彦根高校が彦根東高校に変わる直前の四月二十七年三月に母校を卒立つた我々は、卒業満六〇年になる今年、二七会の還暦と会員各々の傘寿の祝いをかねた同窓会を「工クシヅ琵琶湖」で開催した。

A formal group portrait of approximately 50 individuals, mostly elderly, seated in four rows. They are dressed in formal attire, including suits and dresses. The setting is an ornate room with arched windows and a large, elaborate chandelier hanging from the ceiling.

A black and white group photograph of approximately 50 people, mostly men in suits and ties, posed in four rows. They are arranged in front of a decorative arched doorway with intricate carvings above it.

とりあえず卒寿までは何として
も集まろうと、今年米寿の腰を
伸ばして散会した次第。

七度目の辰年を祝福してくれて
いるようでした。

学。急な石段を昇り詰めた所に五大堂などの仏閣が建つ。比叡山から移された法灯が千年余を

三名のメンバーが集う盛大な同窓会になつた。

というのも、われわれ彦3卒業生にとつての校歌は「彦根中学校」のそれであり、「彦根東高

まだまだ歓談の種は尽きない。木田隆夫、田中一榮、吉信清子の四氏の紹介を最後に、またの再会を約しながら、「六〇周年記念同窓会」は拍手喝采のうちにお開きとなつた。

学年会だより



東4回卒

名古屋地区同窓会

寺倉幸夫(東4)

彦根東高校四回卒の十三回名古屋地区同窓会が、平成二十四年十一月二十二日に名古屋国際ホテルにおいて開催された。

この同窓会は、愛知・岐阜・三重の三県下に在住する彦根東高校四回(昭和三十一年三月)卒業生の集まりである。金龜会発行の会員名簿では、同期で東

彦根東高校四回卒の十三回名古屋地区同窓会が、平成二十四年十一月二十二日に名古屋国際ホテルにおいて開催された。

この同窓会は、愛知・岐阜・三重の三県下に在住する彦根東高校四回(昭和三十一年三月)卒業生の集まりである。金龜会発行の会員名簿では、同期で東

彦根東高校四回卒の十三回名古屋地区同窓会が、平成二十四年十一月二十二日に名古屋国際ホテルにおいて開催された。

海三県下に在住する卒業生は、東京や大阪地区に比べると格段に少なくわずか二十名を数えるにすぎない。

このため親しい友人に相談のうえ昭和十二年生まれであることから、ゴロ合わせで平成十二年十二月二十二日に同窓会を開催する旨の案内状を発送した。場所は名古屋市中心部の料亭を確保したものとの事前予約もせず、一筆の案内状で果たして何名集まるのか大いに不安でありましたが、結果は予想に反してほぼ全員に近い十七名の出席がありました。四十数年振りの再会であるためまず自己紹介から始めたものの学生時代とのイメージギャップが大きく、不確かなまま時間も忘れて話題の尽きない同窓会となりました。参加者は引き続き開催されるものとの暗黙の了解ができ上がり以降今まで毎年定例的に開催している。

現在、病気でUターンした者を除き十八名のメンバーで未だに毎回八十%に近い出席者がおり、若かりし頃の思い出や近況を話題に和気藹々の同窓会を続けております。

2年前の修学旅行の好評に味をしめ今回は、彦根・東京を起点に宇奈月温泉泊、立山黒部アルペンルートを巡る2日間。

「間に無さ過ぎ」「参加費が高い」との声をものとせず、半ば強制的に40名をかき集めたもの



第12回卒名物修学旅行企画 黒部のぎんにやん

澤 龍洋(東12)

生の氣力があるかぎり続けて生きたいと思っている。

足踏みする中、実施を決定。不眠不休の祈りが通じたのか、台風一過秋晴れの10月2日朝、体調不良の淑ちゃんも押込み、東京との合流地松本へ出発。

途中、トイレ休憩なし(トイレ付DXバス)の強行スケジュールにもめげず、東京組と合流後、味噌藏で遅い昼食をかき込み、宇奈月へ制限速度遵守で猛進したものの、予定通りトロッコ列車の乗車時間内には到着できず、幹事はブーリングの嵐に。やむなく老舗「延対寺荘」に、渓流沿いの特別室を用意しても、幹事はブーリングの嵐に。やむなく老舗「延対寺荘」に、渓流沿いの特別室を用意しても、幹事はブーリングの嵐に。

翌早朝、立山黒部アルペンルートに向かう車中では、洋ちゃんの立山開山から黒部ダム建設秘話など臨場感迫る解説に、添乗員さんは失業。。。紅葉を迎えた室堂で、秋晴れの好天に微風の下、自然の景観を賞美しながら昼食弁当に舌鼓。旅程を同じくする他高の女子生徒に話かけ(幸い声掛け事案通報は無し)青春を謳歌。

大観峰から紅葉を眼下に、黒

部ダムへ。ダムの散策では、体力不足を露呈する者や、地酒をグイ呑みの強者、迷子になる者等々記載しきれない数々の思い

出乗せて、クラス友達片寄せ

あえなくと、「修学旅行」の大合唱後、松本で名残を惜しみつ

つそれぞれ帰路につきました。

いよいよ来年は卒業50周年

西川允君を中心とした26年4月に開催(詳細は後日)不参加?「ならぬことは、ならぬのです」

金龜十三会(十三期生・昭和40年卒)の近況報告

木野和也(東13)

いよいよ2014年に同窓会を開催することになりました。

前回は、45周年同窓会を開催。奥野達夫会長のもと実行委員会で計画され2010年1月3日に実施。その時、「50周年までは遠い。期間を短くしてほしい」との要望があつたことを考慮し1年早めました。それらの経緯や様子は、西村仁司さんホームページで詳しく掲載されているので「金龜十三会ニュース」を検索していただくと楽しい。まさに、インターネットの時代。

十三期同窓会実行委員は、鈴木宗嗣さんが、事務局をしてい

「東高18期」 還暦記念の集い

松居弘吉(東18)

去る8月18日、彦根城を望むホテルで、恩師(杉野、川合、伊部、西川各先生)を迎えて、北は北海道、南はマレーシアからも同窓生が集合、総勢17名で18期卒の同窓会を開きました。オリンピックの開催年毎に同窓会を開いて今回で4回目。特に今年は、還暦記念の集いという節目の年となりました。

多くの同窓生も定年で現役を退き、既に次の人生を踏み出しているのか、宛先不明で返送された開催通知が50名。事務局T君達の努力でその連絡先のほと



んどを笑き止め、おかげで多数の参加となりました。

四恩師の我々への人生に対するメッセージと乾杯に続き、卒業アルバムを元に作成したDVD



Dの上映では、場面ごとに拍手がおこる程に気持ちが昔に戻ったようです。メタボと髪の薄い隣席者は誰?と気を揉むこともなく、懐かしい顔を見つけては立ち話。そのうれしさと第二の人生についての情報交流で会話をとめどない様子でした。

終局は、校歌をみんなで合唱の後、次回代表幹事寺村君が4年後の開催を宣言。後ろ髪を引かれながらも楽しい至福の時間を終え、二次会へと散会しました。

最後に、若い金亀会の皆さんに一言。「同窓生は人生の財産です。」

東19回ロクマル同窓会

宮本年博(東19)

19回卒ロクマル(還暦)同窓会を今年1月2日参加82名で開催。

始業チャイムのピアノコンチエルトで入場。

“カッコいい女、シブい男でいたいネ”と銘打った西田君制作看板の下、クラス順に登壇一言スピーチ。

定年後の現況報告、孫の自慢、等々、時間オーバー続出、司会:

三上君は冷汗、でも楽しいひと時、その後、懐かしのフォークソングを廣島君、三上君のギターで熱唱。

また卒業アルバムDVD(八尋さんの娘が制作)を投影、昔の写真で盛り上がり。

中締めは元団応援団長の藤居表・宮本年博



東高二十六回卒 三十五年記念同窓会

西野耕司(東26)

平成二十五年一月二日、彦根東高校二十六回卒が東高卒業三十周年を記念して学年同窓会を開催しました。平成十年一月に第一回を開催以来、五年ごとに開催し今回で四回目となりました。代表世話人は前回に引き続き棚橋食品の棚橋勝道君がやつてくれました。八十三歳にして矍鑠たる石原省吾先生をはじめ、木田忠義先生、前川位先生、市川源一先生の四名の恩師のほか、九十八名が集まりました。

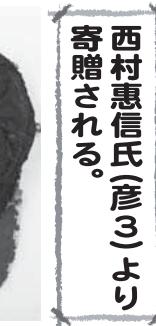
一時三十分に彦根東高校に集合。母校もこの四月より耐震補強に伴うリニューアル工事がはじまり、かつての校舎が改修されるので、

その前に我らが学んだ学舎を今一度見てもらつてかつてを思い出し

懐かしんでもらうといふことで、寒い日ではありました。参考してもらいました。

本年度、関西金亀会総会とPTA文化講演会の講師としてお招きをした西村恵信氏(元花園大学学長)より貴重な学生帽を御寄贈いただきました。

先生の6年間にわたる青春時代の思い出がこもった品物を大切に保管するとともに、史料館で展示させていただきたいと思います。本当にありがとうございました。



☆お願い・お知らせ☆

◎彦根東高校新聞縮刷版III・IVについて

一昨年刊行した縮刷版III・IVを販売しています。ご希望の方は金亀会事務局へお申し込みください。金額は送料込みで3500円です。

訃報

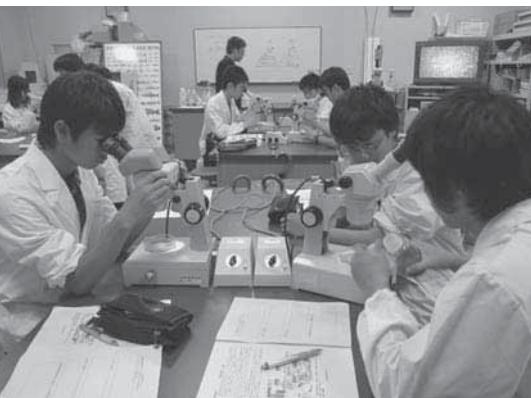
安澤堅次	常任理事
中谷忠義	常任理事
円谷信一	社会
徳田榮男	理科
杉本匡丈	数学
江隅義夫	国語

謹んでご冥福をお祈りいたします。

寄稿を希望する学年は遅くとも11月末までに、年明けに

● SSH

母校だより



1年SSコースの琵琶湖博物館実習

本校は、平成十六年度より、理科・数学・科学技術に重点をおいた教育の研究開発を行う、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）として文部科学省から指定を受けています。平成十九年度の継続指定の後、本年度より五年間の第三期継続指定と、さらに、三年計画で、地域の理数教育の中核的拠点となることを目的とした、コアSSHの指定も同時に受け、九年目となるSSHの取組みも、新たな段階に入りました。

M I T 、 N A S A の研究施設等を訪れるアメリカ研修を、二年生の希望者二十一名の参加で実施しました。

各学年に「クラス設置した「SSH（通常事業）」の取組み

各学年に「数学力・論理的思考力・表現力、

S H の指定も同時に受け、九年目となるSSHの取組みも、新たな段階に入りました。

SHの指定も同時に受け、九年目となるSSHの取組みも、新たな段階に入りました。

SHの指定も同時に受け、九年目となるSSHの取組みも、新たな段階に入りました。

SHの指定も同時に受け、九年目となるSSHの取組みも、新たな段階に入りました。

SHの指定も同時に受け、九年目となるSSHの取組みも、新たな段階に入りました。

英語力の育成を目指した授業を取り組み、課題設定、実験、考察、まとめを生徒自らが行い、成果を発表会で発表します。代表の一グループが、八月に横浜で行われた全国SSH生徒研究発表会で発表しました。

SSH部（科学部）活動の推進も、SSHの柱の一つです。物

理・化学・生物・地学・数学各

班の研究活動が、部員の増加と

ともに活発化してきました。生

物班が「プラナリアの研究」を、動物学会で発表したり、SSH部員を中心、数学オリンピックや化学グランプリ、生物学オリンピック等へ出場しました。

全校生徒対象には、四月に数

学者の秋山 仁先生による記念講演会を、八月に滋賀医科大学と京都大学への見学研修会を実施しました。また、大学の先生の指導による数学基礎講座と数学発展講座を各三回、ミシガン州立大学連合日本センターの外国人講師による英語コミュニケーション講座と語学研修を希望者対象に開講しました。

さらに、国際性を身につける取組みの一つとして、七月に八泊九日で、ハーバード大学、MIT、NASAの研

究施設等を訪れるアメリカ研修を、二年生の希望者二十一名の参加で実施しました。

協力できればと考えています。



小学生対象の彦根東サイエンス塾「算数講座」

● 進路指導課

● 本年度のセンター試験が、1

月19（土）・20（日）の両日

に渡って、滋賀大学を会場に行われました。昨年度は、入試形

式が大きく変化し、多くの受験者が例年以上に緊張して受験にならなかったが、今年度はセンター側の改良もあり、大きな混乱なく試験が行われました。

今年の志望傾向は、経済状況を反映して「理系実学志向」、「地

元志向」のようです。特に、理系の志望率は顕著であり、本校においても一年生のクラス分けで、8クラス中理系が5・5クラス、文系が2・5クラスという編成になりました。

また、医学部や薬学部もたいへん人気で、本校でも多くの生徒が志望しています。昨年度の入試では国立大学の医学部医

学科に現役で5名（名古屋・滋賀医2・岐阜2）また浪人で4名（広島・滋賀医・福井・高知）

と合計9名が合格しました。

さらに、今年度を象徴する言葉として「安全志向」が挙げられます。今年度のセンター試験

では、数学IAと国語が大幅に難化し、全国的に上位者が伸び悩む展開になっています。ともすれば、チャレンジを避け志望を下げる傾向にあるようです。

教育者でもあつたルソーは「慣習とは反対の道を行け。そうす

れば常に物事はうまくいく」という言葉を残しています。世の中

が弱気になつていてるときこそ強気の勝負をすれば、夢に大き

く近づくのではないでしょう。

● 総合教養講座

● 月19（土）・20（日）の両日

に渡って、滋賀大学を会場に行

われました。これからも是非継続

していきたい事業となりました。

この企画は昨年度から始まっ

たものであり、今年度も全員、

本校の第二十回（昭和47年）

の同窓生の方々にお世話になり

ました。日本アイ・ビー・エム

の小嶋徹氏のプロデュースのも

と、国立がん研究センターの塚

田俊彦氏、浅小井農園の松村務

氏、サントリリーの中村ふき子氏、

テルモの廣田直希氏、クボタシ

アイの高木章氏、滋賀県庁の

小林泉氏、農研機構の宮川久義

氏、そして、音楽指導者の石田美枝子氏から示唆に富んだ講話をいただきました。

経験に裏打ちされた言葉であるが故に、そのひとつひとことひどことが参加生徒の心に深く響いた

ようで、多くの生徒が感動し、感謝の気持ちを作文に残していました。これからも是非継続していきたい事業となりました。

● 東大授業ライブ in 彦根

本年度は、東京大学の3人の先生はお招きして講演会を9月・12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

上の本校生徒・教員・中学生・保護者、一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

①新領域創成科学研究科
人間環境専攻

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

②総合文化研究科
超域文化科学専攻

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

③総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

④放射線の科学（放射生物学）



生物学

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

⑤総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

⑥総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

⑦総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

⑧総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

⑨総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

⑩総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

⑪総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

⑫総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

⑬総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

⑭総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

⑮総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

⑯総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

⑰総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

⑱総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

⑲総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

⑳総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

㉑総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

㉒総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

㉓総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

㉔総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

㉕総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

㉖総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

㉗総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

㉘総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

㉙総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

㉚総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護者・一般社会人などが参加しました。

なお、講演の講師とテーマは次のとおりです。

㉛総合文化研究科
教養学部統合自然学科
渡辺 雄一郎 教授

12月・1月に、ひこね燐ばれすや彦根商工会議所を会場にして実施しました。毎回200名以上

の本校生徒・教員・中学生・保護

部活動

平成24年度大学合格者数

() 内は平成24年3月卒の現役

国公立大学		滋賀県立大	8	(7)
北大	1	京都府立大	5	(5)
東京大	1 (1)	大阪市立大	4	(3)
横浜国立大	2 (2)	大阪府立大	6	(3)
富山大	3 (3)	神戸市外大	2	(1)
金沢大	11 (9)	国公立大合計	202	(159)
福井大	6 (4)			
岐阜大	6 (6)			
静岡大	7 (7)	私立大学	1	(1)
愛知教育大	3 (2)	青山学院大	4	(3)
名古屋大	11 (9)	慶應大	2	(2)
名古屋工大	1	上智大	2	(1)
三重大	3 (3)	中央大	1	(1)
滋賀大	25 (21)	東京理大	1	(1)
滋賀医大	6 (5)	立教大	1	(1)
京都大	11 (8)	早稲田大	10	(1)
京都工芸繊維大	9 (7)	京都産業大	9	(5)
京都教育大	5 (5)	京都女子大	33	(32)
大阪大	14 (8)	京都薬大	11	(7)
大阪教育大	6 (4)	同志社大	92	(37)
神戸大	7 (3)	同志社女子大	21	(21)
奈良女子大	1 (1)	佛教大	22	(12)
和歌山大	3 (3)	立命館大	186	(112)
岡山大	3 (2)	龍谷大	60	(47)
広島大	5 (1)	関西大	48	(31)
愛媛大	2 (2)	関西学院大	10	(6)
九州大	2 (2)	私立大合計	631	(398)



全日本ジュニア選手権大会に参加する石田良知君

方から来られました。その方は定時制

とところで、昨年の秋のある夜、定時制職員室に二〇年以上前の卒業生が来られました。その方の歴史は、

準優勝	◆	【春季総体】	◆	【春季総体】	◆	【春季総体】	◆	【春季総体】	◆
全国選抜近畿予選出場		近畿大会出場		近畿大会出場		近畿大会出場		近畿大会出場	
近畿大会出場		近畿大会出場		近畿大会出場		近畿大会出場		近畿大会出場	
○男子団体 3位		○男子団体 3位		○男子団体 3位		○男子団体 3位		○男子団体 3位	
宮本 歩 3位		宮本 歩 3位		宮本 歩 3位		宮本 歩 3位		宮本 歩 3位	
インターハイ出場		インターハイ出場		インターハイ出場		インターハイ出場		インターハイ出場	
宮本・常喜美咲 ベスト8位		宮本・常喜美咲 ベスト8位		宮本・常喜美咲 ベスト8位		宮本・常喜美咲 ベスト8位		宮本・常喜美咲 ベスト8位	
北川貴大・大野大樹 21位		北川貴大・大野大樹 21位		北川貴大・大野大樹 21位		北川貴大・大野大樹 21位		北川貴大・大野大樹 21位	
【春季総体】	◆								
弓道		弓道		弓道		弓道		弓道	

○男子団体 3位	◆	【春季総体】	◆	【春季総体】	◆	【春季総体】	◆	【春季総体】	◆
宮本 歩 3位		宮本 歩 3位		宮本 歩 3位		宮本 歩 3位		宮本 歩 3位	
インターハイ出場		インターハイ出場		インターハイ出場		インターハイ出場		インターハイ出場	
宮本・常喜美咲 ベスト8位		宮本・常喜美咲 ベスト8位		宮本・常喜美咲 ベスト8位		宮本・常喜美咲 ベスト8位		宮本・常喜美咲 ベスト8位	
北川貴大・大野大樹 21位		北川貴大・大野大樹 21位		北川貴大・大野大樹 21位		北川貴大・大野大樹 21位		北川貴大・大野大樹 21位	
【春季総体】	◆								

○男子団体 3位	◆	【春季総体】	◆	【春季総体】	◆	【春季総体】	◆	【春季総体】	◆
宮本 歩 3位		宮本 歩 3位		宮本 歩 3位		宮本 歩 3位		宮本 歩 3位	
インターハイ出場		インターハイ出場		インターハイ出場		インターハイ出場		インターハイ出場	
宮本・常喜美咲 ベスト8位		宮本・常喜美咲 ベスト8位		宮本・常喜美咲 ベスト8位		宮本・常喜美咲 ベスト8位		宮本・常喜美咲 ベスト8位	
北川貴大・大野大樹 21位		北川貴大・大野大樹 21位		北川貴大・大野大樹 21位		北川貴大・大野大樹 21位		北川貴大・大野大樹 21位	
【春季総体】	◆								

○男子個人 佐藤颶海 2位	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆
吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位	
○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール	
ダブルスカル 1位		ダブルスカル 1位		ダブルスカル 1位		ダブルスカル 1位		ダブルスカル 1位	
石田良知 竹村文菜		石田良知 竹村文菜		石田良知 竹村文菜		石田良知 竹村文菜		石田良知 竹村文菜	
【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆

○男子個人 佐藤颶海 2位	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆
吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位	
○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール	
大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞	
青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈	
【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆

○男子個人 佐藤颶海 2位	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆
吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位	
○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール	
大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞	
青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈	
【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆

○男子個人 佐藤颶海 2位	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆
吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位	
○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール	
大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞	
青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈	
【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆

○男子個人 佐藤颶海 2位	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆
吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位	
○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール	
大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞	
青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈	
【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆

○男子個人 佐藤颶海 2位	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆
吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位	
○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール	
大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞	
青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈	
【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆

○男子個人 佐藤颶海 2位	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆
吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位		吉川拓穂 3位	
○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール		○全国高校新聞コンクール	
大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞		大東文化大学学長賞	
青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈		青木祐里奈 青木祐里奈	
【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆	【秋季総体】	◆

○男子個人 佐藤颶海 2位	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆	【秋季高文祭】	◆

</tbl_r

グアム修学旅行

北村哲士(東42)

平成24年11月6日から11月9日までの三泊四日、2年生はグアムへ修学旅行に出かけました。生徒313名、引率教員14名が参加、引率教員のうち私を含め6名は本校の卒業生です。ちなみに同年代のこの6名の修学旅行先は東京方面。「アメ横に行つた」、「ミュー・ジカルで本田美奈子を見た」「筑波の博物館に行つた」など、残念ながら途切れ途切れの記憶があるのみです。20年ほどの年月がたち、海外へ修学旅行に出かける時代になりました。今回は東高初となつた、グアムへの修学旅行の様子を報告します。

1日目 グアムに向けて出発

生徒の修学旅行の印象は、天気を中心に影響されます。天候が悪いと印象も悪く、逆に天候が良い場合は印象も良くなります。グアムには雨期(6~10月)と乾期(11~5月)があり、11月の初めはちょうどその境にあたります。事前の天気予報は思わずなく、出発当日の朝も日本は雨でした。飛行機の関係でA、B、Cの3つの団に分かれての出発となりました。朝早い団もあり大変でしたが、保護者の方の協力もあり、どの団も無事出発できました。海外へ修学旅行に出かける時代になりました。朝早い団もあり大変でしたが、保護者の方の協力もあり、少なくありません。飛行機が離陸するときは生徒の歓声が上がり、修学旅行ならではのコマです。入国審査では英語で対応が求められるということで、生



2日目 学校交流

2日目はとても暑い一日になりました。この旅行のメインである、アムの地理から、現在の研究内容までわかりやすく紹介をしてくださいました。アムは食物をほぼ輸入に頼つており、その解消に向けて、環境に優しい循環型の農法をアムに根付かせる研究をされていました。また、東高を卒業してからハワイの大学に進まれた自身の経験などを語っていただき、貴重な学習ができました。農場でとれたカラマシンシーの冷たいジュースをごちそうしていただき、暑かつたので生き返る気分でした。

3日目 クラス別選択学習

3日目は生徒が特に楽しみにしていたマリンスポーツです。天候

徒たちは緊張の表情でした。無事に入国審査を済ませ、空港の建物から出る際に、はじめてグアムのむつとした空氣に触れ、グアムに来たという実感をしました。

たけん玉や折り紙、あやとりなどを通して日本文化を紹介しました。英語でうまく伝えられない部分もありましたが、手取り足取りで十分紹介ができました。お昼ご飯の焼き肉弁当と一緒に食べましたが、ケネディ高校の生徒がみな、お箸を上手に使えることに驚きました。

2日目 クラス別選択学習

4日目 帰国

5日目 平成二十五年五月二十六日(日)

彦根・湖東・湖北支部総会	彦根・湖東・湖北支部総会	13時15分
総会	14時(受付12時45分)	
記念講演会	15時	

平成二十五年度

金 龜 会 総 会

彦根・湖東・湖北支部総会

17時より 懇親会

(グランドデューカホテル
会費 七千円(当日徴収))

(なお、耐震改修工事のため正門は使用できません。
裏門から入って下さい。)



講師 中央大学総長・学長

「グローバル化する大学教育の潮流」
増島六一郎(彦根出身・中央大学創立者)の
生涯に学ぶ

福原 紀彦 氏(東20回)

新築された彦根東高校木造校舎音楽教室

講演

場所

彦根・湖東・湖北支部総会
14時(受付12時45分)

15時



グアム大学農学部教授 丸谷真理氏(東17)

38)、上阪宏(東38)、津布良春樹(東40)、藤村祐子(東42)と私の6名です。

●ご出席の方は同封ハガキをご返送ください●